

乳幼児同伴者に配慮した化粧室の計画

○谷口久美子

(文化女大)

目的 公共施設の婦人用化粧室にはベビーキープやベビーシート等、乳幼児同伴者の為の備品が設置されているが、これらの備品の設置状況は施設によって異なり、使用実態に適合していない場合もある。また、これらの備品が個室ブースに設置されるとブース面積が狭くなり、一般の利用者にとっては使い難くなることも考えられる。そこで、乳幼児同伴者に必要とされる化粧室機能について乳幼児の年齢層と使用状況別に整理するとともに、乳幼児を同伴しない一般の利用者にとっても使いやすい化粧室の計画について検討した。

方法 幼稚園児の父兄 102 名を対象として、乳幼児を同伴する外出先、外出先での乳児のオムツ交換、幼児の排泄行為の介助、保護者の化粧室利用についてアンケート調査した。また、外出先施設における乳幼児同伴者の為の設備・備品の設置状況を調査した。

結果 保護者が 1 人で乳幼児を同伴する外出先は、スーパー、デパート、駅等に限られ、動物園、ホテル等、レジャー目的の施設には、保護者 2 人以上で同伴している。保護者が 2 人以上の場合、保護者の化粧室利用時には乳幼児を同伴者に預けるため、乳児のオムツ交換や、幼児の排泄の介助のし易さが重視される。これらの施設の多くは、ベビールームを設置しているが、専用室が遠い時は近くの化粧室を使う者も多く、化粧室内にもオムツ交換用の備品が必要であること、幼児の排泄の介助には子供専用便器が望ましいが、大人用や兼用便器を使用する場合は、ブース面積を十分に確保する必要があることがわかった。また、男性が幼児の排泄を介助する場合もあるため、男女共通で使え、面積に余裕のある身障者用ブースに乳幼児の為の備品を設置することは、使用実態に応じた計画といえる。